

イラン大統領ヘリで墜落死（563号）

2024年 5月 石館

イランのライシ大統領を乗せたヘリコプターが19日、イラン北西部の東アゼルバイジャン州にある山岳地帯で墜落し、20日にライシ師の死亡が確認された。同乗していたアブドラヒアン外相も死亡した。事故の詳細は不明だが、イスラエルによる暗殺の可能性は少なく、悪天候で視界が悪かったことが原因と報じられている。

ライシ師は反米保守強硬派の大統領で、最高指導者ハメネイ師の“愛弟子”として知られ、後継者と目されていた。



AP通信などによると、現場が首都テヘランから約600キロ離れたジョルファ近郊とみられる。ライシ師はアゼルバイジャンとの国境付近で同国のアリエフ大統領とダム落成式に参加した後、戻る途中だった。

ヘリは3機で飛行していたが、ライシ師らの乗ったヘリだけ墜落したという。

ハメネイ師は20日、“イランは価値のある奉仕者を失った”と述べ、5日間の追悼期間

を設けると宣言した。



イラン憲法では、在職中大統領が死亡した場合、最高指導者の了承を得て第1副大統領が引き継ぎ、50日以内に大統領選を実施すると定められている。この規定に従い、モフベル第1大統領が暫定

大統領に就任する。

ライシ師はイスラム教シーア派の聖地がある北東部マシャド生まれ、15歳で聖コムの神学校に入学し、後に最高指導者となるハメネイ師の下で教育を受けた。1979年のイラン・イスラム革命後に地方検事となり、2014年検事総長に就任。19年には米国から個人制裁の対象に指定された。



大統領選には17年初めて出馬し、保守穏健派の現職だったロウハニ師に敗れたが、再出馬した21年大統領選では事実上の優遇措置を受けて当選した。

就任後は反米強硬路線を押し進め、ウラン濃縮やミサイル

開発を推進、今年4月には在シリアのイラン大使館が空爆された際は報復を宣言し、イスラエルに向けて300発以上のミサイルなどを発射した。国内では22年に起きた女性らによる反ヘジャブ(スカーフ)デモを強硬に取り締まり、多くの死者を出した。

ライシ師は2021年に大統領に就任してから、前任のロウハニ元大統領と違って、ハメネイ師に忠誠を尽くしてきた。ハメネイ氏は事故の一報が伝えられた後、“混乱はない”と強気の姿勢を見せた。実際、軍や行政、外交などすべてを掌握しているイランの最高権力者はハメネイ師で、“大統領”はあくまで行政府の長に過ぎなく、その点他国の大統領と異なっている。ハメネイ師が指揮を執っている限り、国政に大きな混乱は起きないと見られている。

トーマスは、イランが国際石油市場に進出する前に、エネルギー大臣が日本に来た時、当時のエネルギー部門担当が非常によく面倒を見たことから、一頃イラン原油の日本向けの3分の1弱を取り扱っていたこともあるイランに強い商社であった。

その関係から、小生自身は個人的にはイランに強い人脈は持っていなかったが、経団連のイラン委員会の企画委員長をさせられ、イランに行ったときはハタミ

大統領を表敬したことがある。これも不思議な縁であるが小生の父親も政府代表の一員として1960年代にパーレビー国王を王宮で表敬したことがある。



イラン革命後の歴代大統領を見ると改革保守穏健派と反米保守強硬派と交互になっている。

この中で特に問題だったのはアフマディネジャド大統領であった。彼は革命防衛隊の出身で、日本の大使が赴任するとすぐ大統領に会って信任状を提出するが、日本の大使になかなか会おうとせず日本大使館も困ったことがあった。

小生の空手の友人が革命防衛隊で空手の指導をしていたことがあり、アフマディネジャド大統領もよく知っていたので、小生が間に入って大使館に協力しようとしたことがある。その結果どうなったか外交機密の関係もあり明らかにすることは出来ないが。

ライシ師が死去したことで、ハメネイ師は有力な後継者候補を失ったことになる。大統領が死亡した場合、すでに述べたように50日以内に新たな大統領を選出する手続きをしなければならない。ハメネイ師は85歳と高齢で、健康不安説もたびたび取りざたされている。

今のところ、ハメネイ師の代わりにこれといった人物はいないと見られているため、今後、後継者争いが激しくなり、国内に混乱が生じる可能性もある。ただイランの大統領選挙では、後継者選びに最高指導者が影響力を持つので、ハメネイ師の意に沿わない候補者は出馬できないのではないとも言われている。

イランの後継者選びは中東のみならず、国際情勢に少なからず影響を与えるため、どの様な人物が次の大統領に選ばれるか、世界から注目されている。

ライシ師の亡き後はハメネイ師の息子モジタバ師が抜きんできた形だが、政治的実績に乏しく指導力も未知数で、政情の混乱と不安定化の火種になる可能性もある。



イランのライシ大統領らを乗せて離陸したヘリ

報道によれば墜落したヘリは1979年のイスラム革命前に輸入された米国製のベル型機で、この機種はかなり前に製造を中止しており、古いタイプで、しかも制裁の影響で、機材の更新も不十分だった可能性も否定できない。

一国の大統領がこのような古い整備も不十分な機種に乗っていること自体ちょっと信じられない気持ちがする。

今後、イランでは大統領選出に向けた手続きが進められていくが、新大統領の誕生で外交・経済政策などが大転換することは考えにくい。

当面の関心事は、最高指導者を誰が継ぐかという問題で、体制の安定性を保ちつつも、指導部内では熾烈な権力闘争が繰り広げられていくであろう。